

平成 30 年 1 0 月 3 日 (水)

平成 30 年度関西保育福祉専門学校  
第 1 回教育課程編成委員会報告

本校の教育課程編成委員会設置要綱に基づき設置した教育課程編成委員会において、「第 1 回教育課程編成委員会」を開催いたしましたので、その概要を報告します。

1. 開催日時 平成 30 年 8 月 2 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00

2. 関西保育福祉専門学校 校長室

3. 出席者 (敬称略)

名前	所 属	備考
船寄俊雄 委員	神戸大学人間発達環境学研究科 教授 教育学博士	出席
富奥眞二 委員	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 事務局長	欠席
河原至誓 委員	社会福祉法人あいく会 理事長	出席
国沢典子 委員	尼崎市立北難波保育所 所長	出席
北島孝道 委員	学校法人庄内神社学園 幼保連携型認定こども園 庄内こどもの杜幼稚園 副園長	出席
濱田洋行 委員	社会福祉法人 協同の苑 特別養護老人ホーム ケイメゾンときめき施設長	出席
細川明子 委員	関西保育福祉専門学校 教頭	出席
藤田千波 委員	同 教務部長	出席
山本晴彦 委員	同 保育科学科長	出席
尾崎朋子 委員	同 介護福祉科学科長	出席
三島美砂 委員	同 保育科 教員	出席
濱名 篤	学校法人濱名学院 理事長	出席
和泉喜久男	校長	出席

4. 委員会次第

- (1) 校長挨拶
- (2) 理事長挨拶
- (3) 委員長選出

設置要綱に基づき教務委員長である藤田委員が選出された。

- (4) 報告

事項 1 これまでの教育課程編成委員会からのご意見とその対応について

■ 学校説明

資料に基づき、教育課程編成委員会の意見を踏まえた取り組みの経緯を説明し、了解を得た。

## 事項2 学校の現状について

### ■ 今年度の現状について説明

#### □ 委員からの意見

- 教員研修も必要となる時代だが、有意義な内容の教員研修をしているのか。  
→アクティブラーニング、多様な学生対応、事例検討、授業の在り方について等、多岐に渡って実施している。

#### (5) 協議

## 事項1 2018年度の取り組みについて

### ■ 学校説明：保育科の取り組みについて

- 保育科では今年度、実習が12日間から10日間に変更になった。また、教育課程の改定があり、このカリキュラムは来年度4月から実施していく。
  - 新しいねらいについては5領域に絞っていき、現場のニーズを反映するものになっているように考えている。
- #### □ 委員からの意見
- 保育所では現在、保育所保育指針を全職員で見直している最中である。
  - 大阪では実習ガイドラインを作った。これは効果的な実習が行われていないということから始まった取り組みである。実習生にとって大事なことをまとめている。実習記録をA4一枚のフォーマットにできるよう取り組んでいる。理論と実践の結びつきが課題である。
  - 保育の課題として非認知能力を高めていくことが大事であるといわれているが、それをどうやって子どもの中から引き出すか、保育者として考えられる力を養成機関では養成してほしい。
  - 講義概要のP4に情報機器の操作を習得するとあるが、この授業の目標と内容が現代に合わないものになっているのではないか。情報をどう出せばよいか、セキュリティーの問題などを教えていくことが必要なのではないか。授業ではUSBを使っているようだが、危険ではないだろうか。
  - 今回の改定は何を狙っているのかが分かりにくい。現場ではこの改定をどう受け止めているのか、現場のニーズを反映したものになっているのか、検討中である。
  - 教科間連携がますます重要になると考える。
  - 教科の内容を絞っていき、精査されつつあるが、十分でない部分もある。今後も頻繁に教員間で連携をとっていくことが必要だろう。  
→今後はシラバスの改定、教員間の連携をしっかりと実施していきたい。
  - 親の対応や親への支援が大事になるという時期、「相談援助」が削除されて大丈夫なのだろうか。
  - 現場では家庭を支援することが増えている。
  - 文部科学省と厚生労働省の指定基準に則したカリキュラムを作成している。相談援助の必要性は認知しており、新しく設定される「子ども家庭支援の心理学」で対応する。
  - 子どもの発達障害についてはどう教えているのだろうか。親への伝え方など現場では大変

困っている。

- 確かに保護者に伝えることは大変難しい。そのあたりをどうカリキュラムに反映するのか。
- 心理学の授業を担当しているが、2年間に渡って、基本的な知識、当事者への支援の方法、保護者とのやり取りの実際、ロールプレイなど実践的な授業を展開している。
- 最近では学生の中にも障害のある学生がいる。多様な学生にどう対応すればよいのか、授業の中でどう対応するのか、今後の課題であると考えている。

■ 学校説明：介護福祉科の取り組みについて

- 国家資格試験、外国人留学生への対応が学科として重点的に取り組む課題である。
  - 外国人留学生には日本語試験を実施しているが、今後、入学試験の在り方もさらに、検討していく必要がある。
- 委員からの意見
- 外国人の方が色々なところから来られている。流れとしては外国人がますます増えるだろう。日本語の習得が問題になってくるが、現地でN3を取るの难道いではないか。N4、N5のレベルの学生がついていける授業を検討してほしい。
  - 他校でも外国人を受け入れている学校は多い。全国的にも外国人留学生が増えてくるだろう。
  - 奨学金を使うことが可能であれば留学生が主流になるのではないか。
  - 2025年問題がもうすぐやってくる。専門学校にたくさんの学生が入学し、育ててもらいたい。高校の先生が介護職の重要性を理解できるようにして行く必要がある。
  - 実習時、実習生のコミュニケーション力に幅がありすぎる。積極的に関わる学生と全く関わらない学生がいる。関わり方を知らないのかもしれない。イエス・ノーで答えられる声掛けだけをしては、相手は話してくれない。そのようなことも指導する必要がある。

事項2 災害時の対応について

■ 学校説明

□ 委員からの意見

- 災害時、保育所は閉所することはないが、保護者やの方に来所しないように協力をお願いしている。昨今の大雨や地震については対応を検討中である。
- 豊中市の公立幼稚園は、地震の震度5の時に休園となる。
- 入所の施設では災害時も職員レベルにおいては何とか来てもらいたい。
- デイサービスにおいてはその時の状況で対応している。
- 介護福祉科では午前10時に警報が解除されたら実施することになっている。
- 実習に関しては実習地域が異なり、遠方の実習であれば実習先の判断となる。

事項3 その他

- 委員からのご意見

○社会人の減の要因は何だろうか。

→ハローワークに尋ねると景気が良く職がたくさんあるとのことなので、そのためではないかと分析している。

(6) 校長挨拶

(7) 事務連絡

**【報告】**

この度、社会福祉法人あいく会理事長 河原至誓 様からの申し出により、教育課程編成委員会委員を辞退されましたので、報告いたします。